



スウェーデン & 飯田、環境を語るティータイム

4月9日(土)午後、りんご庁舎で「スウェーデン & 飯田、環境を語るティータイム」が行われました。

4月8日(金)から10日(日)まで、南信州観光公社が主催する、「南信州飯田エコソリズム研修会」が、環境問題のコンサルタントや市民活動家、県議会「あおぞら」に所属する北山早苗、宮川速雄、林奉文氏を含め17人の参加者のもと開催されました。



北山早苗県議(右)

ティータイムはこの研修の一環で行われましたが、ツアー参加者の他、環境先進国スウェーデンの取り組みに関心のある市民の参加もありました。

ツアー参加者にとってこのティータイムは、千代のよこね田んぼ、ごんべえ邑、千代や伊賀良での農家民泊や、太陽光市民共同発電、環境産業公園の視察を受けたための会も兼ねたものでした。

持続可能なスウェーデン・ツアー

「持続可能なスウェーデン・ツアー」という研修があります。これは環境先進国と言われるスウェーデンの取り組みを広く世界に知ってもらうことで、この取り組みを世界へ広げていこうという試みです。

ツアーには、森林所有者や子どもに対する森林教育、環境認証制度 FSP、PEFZ、森の様々な価値(暖房熱源、建材の原材料、将来の車燃料の原材料、観光や手芸の資源として)といったプログラムが組まれています。

ティータイムには、このスウェーデン・ツアーを主催するエーサム社からバルボロ・カッラ氏が参加し、飯田のエコソリズムとスウェーデンの取り組みを比べ

ながら交流を深める形となりました。バルボロ氏は飯田の他に沖縄、京都なども訪問し、日本版の「持続可能ツアー」プランづくりの下見も兼ねた参加です。



バルボロ・カッラ氏(右)

スウェーデン、ウーメオ市に本社を置くエーサム社は、持続可能な発展の分野で人材育成を行うことを目的とした企業です。

鍵は担い手づくり

バルボロ氏は、「持続的な発展の鍵は、取り組みを担う人づくりに尽きる」と語ってくれました。スウェーデンでは何よりも消費者や子どもたちへの啓発や教育を大事にしており、教育によって形成された国民一人ひとりの高い問題意識が、環境政策にも大きな影響を与えているということです。特に参政権を持つ18歳以上の若者たちの政治への参加が積極的で、10代の国会議員まで生まれ、議員の平均年齢も40代、若い人たちに未来を託す風土が定着しているそうです。日本の場合、教育による一人ひとりの意識づくりが大きな課題と感じました。

ISOをネットワークで取得

また、エーサム社の業務のひとつに、アジェンダ21を広めるために国内のさまざまな地域でISO14001の取得を進める仕事があります。その中で中小企業が独自でISO14001を取得することの困難を、それぞれの会社をネットワークし共同で認証取得を進める取り組みも行っているそうです。あわせて自治体自身がISO14001を取得する取り組みも進めているそうですが、自治体の取り組みはまだ緒に就いたところのようで、飯田市の取り組みに随分関心を持たれていました。

スウェーデンの取り組みと地域ぐるみ環境ISO研究会の活動や考え方には重なるところも多く、研究会の活動は、国際的にも先進的な取り組みといえそうです。

飯田の取り組みに驚き

なお、3日間のツアーに参加した皆さんも、エーサム社のバルボロ氏も、訪問した各施設で出会った人たちの意識の高さに驚き、飯田で進められている取り組みを高く評価してくれました。飯田下伊那地方が、持続可能な日本ツアーの拠点として位置づけられることも大いに期待できます。



参加者によるグループワーク

「持続可能なスウェーデンツアー」に関するHP

<http://www.netjoy.ne.jp/~lena/kankyoguide.html>

この地域の元気につなげること、そのため人材や技術や資金が地域に環流するだけでなく、それら呼び込むまでに地域の力をつけたいと願います。自然豊かな、そして研究会の挑戦はこれからも続きます。

研究会事務局のうち飯田市役所担当が小林敏昭から木下巨一(のりかず)に変わりました。ぐるみ通信、これからも継続して発行していきます。読者の皆さまもぜひ情報をお寄せください。多くの皆さまの参加で、多様な紙面作りをめざします。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
p05300@tamagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp